

博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名(生年月日)	二宮 千春 (****年**月**日)
本 籍	*****
学位(専攻分野)	博士(保健看護学)
学位授与番号	甲第166号
学位授与日付	令和3年3月20日
学位授与の要件	学位規程第3条第3項該当
論 文 題 目	救急外来においてグリーンケアを導入するための取り組み ～ミューチュアル・アクションリサーチを用いて～
審 査 委 員	教授 竹田 恵子 教授 中新 美保子 教授 大田 直実 教授 小山 千加代(新潟大学大学院)

博士論文内容の要旨

本論文は、ミューチュアル・アクションリサーチの手法を用いて実践者である看護師と研究者との協働により救急外来でグリーンケア導入へ取り組む中で、実践者と研究者のチーム全体に生じた意識的、行動的变化の過程を明らかにした実践研究である。

中国地方の1病院をフィールドとする2年5カ月間の研究成果として、チームの変化は【懸念と期待の中での合意】【他施設を模倣したモデル作成に邁進】【カオス】【ケアの本質への気づき】【ケアの浸透】の5つの局面をたどったと解釈された。【カオス】という混沌状態に陥ったが、グリーンケアが必要な事例に遭遇したことで、看護師として患者・家族に添うことの意味に気づいたチームのパターン認識によりケアのありようは変化した。その変化は多職種にも波及し、患者・家族のためのグリーンケアがサポートプランとして導入されるに至った。

本研究の成果は、「救命ありき」の救急外来において、「死に直面した」家族への支援の重要性を提案し、グリーンケア実践のための方法として他施設においても参考になる知見であることが示された。

博士論文審査結果の要旨

救急医療の場は看取りに遭遇することが多い。しかし、多忙な救急外来のグリーンケアの実践は、診療報酬が加算されていない現段階において、その場にいる医療者の専門職としての意欲と覚悟が必要である。本研究は、救急外来にグリーンケアを導入したいと考える医療施設において、研究者と看護師がチームを組み協働してグリーンケア導入に取り組んだ実践研究である。

本研究の成果とその解釈、グリーンケアの本質に関する質問があった。グリーンケアの実践が成果であり、看護師のグリーンケアへの考え方や行動の変化、多職種を巻き込んだ救急外来全体へのケアの波及などについて実践したケアをもとに具体的に説明するとともに、研究成果をふまえたグリーンケアの本質についての見解を示し、理解された。これらの適切な回答により、本論文が救急外来におけるグリーンケア導入のプロセスを可視化した独自性のある研究であり、有益な知見を示したと評価された。最終試験に向けて、成果の解釈と考察に関する示し方については課題が残された。